

株式情報

株式の状況

発行可能株式総数

120,000,000株

発行済株式総数

31,931,900株

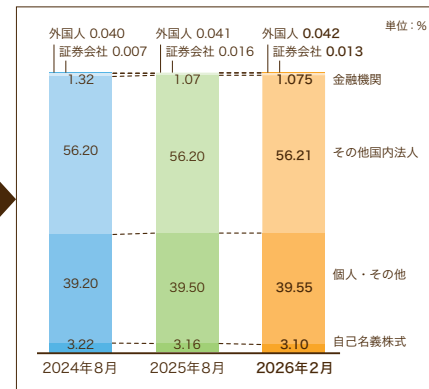
株主数

18,304名

株式の所有者別状況

	2024年8月31日現在		2025年8月31日現在		2026年2月28日現在	
	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)
証券会社	9	2,405	9	5,235	10	4,300
外国人	20	13,000	20	13,300	23	13,500
金融機関	3	421,914	2	343,014	2	343,314
その他国内法人	91	17,946,464	92	17,945,964	98	17,949,164
個人・その他	16,702	12,517,329	17,756	12,613,878	18,170	12,629,854
自己名義株式	1	1,030,788	1	1,010,509	1	991,768
合計	16,826	31,931,900	17,880	31,931,900	18,304	31,931,900

株式の所有者別構成比率の推移



※基準日時点の株主名簿に基づき記載しております。

株主メモ

事業年度	毎年7月1日から6月30日	公告の方法	電子公告の方法により行います。但し、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
定時株主総会	毎年11月	公告掲載URL	http://www.joyfull.co.jp/
基準日	定時株主総会の議決権／毎年8月31日	上場取引所	福岡証券取引所
	期末配当金／毎年8月31日	◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について	株主様の口座がある証券会社にお申し出ください。
	中間配当金／毎年2月末（中間配当を実施する場合）	◎株主総会資料の電子提供制度(書面交付請求)についてのお問い合わせ	なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行様にお申し出ください。
単元株式数	100株	◎株主総会資料の電子提供制度(書面交付請求)についてのお問い合わせ	お取引の証券会社または三井住友信託銀行様へお問い合わせ願います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	専用コールセンター	0120-533-600 受付時間：9:00～17:00 (土・日・祝日および12/31～1/3を除く)
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
郵便物送付先	〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
(電話照会先)	TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。		

会社概要（2025年12月31日現在）

創業	1965年6月	資本金	1億円	(連結子会社)
創立	1976年5月	主な事業内容	「ファミリーレストランジョイフル」のチェーン展開	株式会社ジョイフル北日本/株式会社ジョイフル東海/株式会社ジョイフル関西/株式会社ジョイフル中国/株式会社ジョイフル四国/株式会社ジョイフル北九州/株式会社ジョイフル中九州/株式会社ジョイフル東九州/株式会社ジョイフル西九州/株式会社ジョイフル南九州/株式会社フレンドリー/台湾珍有福餐飲股份有限公司/株式会社ジョイフルサービス/株式会社ジョイナス/株式会社ジョイフル商事
社名	株式会社ジョイフル			
本社	大分県大分市三川新町1丁目1番45号			
福岡工場・配送センター	福岡県築上郡築上町日奈古186番1号			
熊本工場・配送センター	熊本県菊池市袈裟尾字下大迫445番4号			
愛知工場	愛知県豊川市御津町佐脇浜三号地1番17号			

BUSINESS REPORT

第52期中間事業報告書

2025年7月1日～2025年12月31日

経営理念

私達は、チェーンレストラン事業を通じ、顧客・株主・従業員・取引先・社会の、精神的・物質的幸福を調和させ、その安定的増進を実現します。

ジョイフル 店員の誓い

私達は、ジョイフルの旗のもと、信頼される品質の店、低廉な価格の店、どこにでもあって、いつでも開いている店、気軽に快く過ごしていただける店として、永続的・安定的に営業し、皆様に愛される店となります。



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、ここに第52期（2026年6月期）の中間事業報告書を作成いたしましたので、ご覧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

日頃より当社グループの事業活動にご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、個人消費において持ち直しの動きがみられ、緩やかな回復傾向にあります。エネルギー価格や原材料価格の高騰、為替相場における円安の長期化、不安定な国際情勢、米国の通商政策による影響など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

外食業界においては、個人消費やインバウンド消費は増加傾向にありますが、昨今の米の価格の高騰や、エネルギー価格、人件費、原材料価格の上昇など、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは今後の中長期的な成長戦略を実現するため、既存のイトイン事業はもちろんのこと、テイクアウトやデリバリー販売、量販店や通販サイトを通じた販売の強化、社員独立フランチャイズ店舗の拡大など子会社を含めたグループ全体のパフォーマンス向上に取り組んでまいりました。

商品施策では、既存商品のブラッシュアップを継続して提供品質の向上を進めると同時に、試験販売を繰り返してお客様の消費動向を慎重に分析した上で、Grandメニューの改定を1回、秋フェア「いろいろ秋味」、冬フェア「ほかほか冬の推しメシ」を行いました。

Grandメニューの改定では、カリッとジューシーなチキンと新鮮な野菜が相性バツグンの「野菜たっぷりチキンの竜田揚げと釜揚げしらす丼」、春の登場以来人気の「正統派そば」を使用した「牛肉と焼き葱のみぞれつけそば」、お肉好きの方にはたまらない「ミートラヴァーに捧ぐ!トリプルミートコンボ」「倍盛りジョイフル塩唐揚げ定食」、寒い季節に嬉しい「鍋メニュー」の充実、丼メニューには「ご当地海鮮丼」、ほっこり甘い「お芋デザート」など、食欲をそそり、食欲がとまらない新メニューを多数揃えました。また、コストパフォーマンス抜群のランチでは、日替りランチとグリルランチのライスを「カレーライス」にバージョンアップできるようになりました。冬フェアでは、からだが温まる熱々お鍋メニュー「博多もつ鍋定食（ちゃんぽん麺入り）」、深みある味わいを楽しむ定食メニュー「広島県産かきフライ定食」、心が満たされる濃厚なスイーツ「北海道産マスカルポーネチーズの芳醇ティラミスパフェ」など、からだ温まるほかほかメニューと3種類の濃厚スイーツを揃えました。

さらに、7月には前期にご好評いただいたPEANUTSとのコラボレー

ションメニューを販売したほか、12月には人気アニメ「ONE PIECE」とのコラボレーションを2回にわたり行い、「ルフィのドン!!と山盛り肉々グリル&麦わらオムライス」「チョッパーの桜舞うホットケーキプレート」などの商品を販売しました。

営業施策では、重点的な取り組みとして、料理のクオリティ維持・向上を目的に作業チェックシートを活用してひとつひとつの作業の徹底を行い、良い品質で、見た目にもきれいで、鮮度の良い美味しい料理を安定的に提供できるように努めてまいりました。

また、販売促進として、PEANUTSとのコラボレーション新TVCMやジョイフル宣伝部長の秋山竜次さん（ロバート）が出演し、秋冬の新Grandメニューを紹介する新TVCMを放映しました。さらに、9月には前期ご好評いただいていた一般のお客様やマスコミを対象とした新商品試食会&福岡工場見学ツアーの体験イベントを開催し、世界にひとつだけのオリジナルパフェ作りや、製造・配送の様子を見ることができ工場見学を行いました。11月には子育て世帯に向けた「キッズ半額キャンペーン」を実施しました。また、客席で好きなタイミングで従業員を介さずに会計ができるテーブル決済を一部フランチャイズ店舗を除くジョイフル全店に導入し、更なるお客様の利便性の向上を図っております。

当中間連結会計期間における店舗数は、グループ直営店8店舗の出店により669店舗となりました。また、グループ直営からフランチャイズへ43店舗転換を行ったことにより、グループ直営421店舗、フランチャイズ248店舗となりました。

以上の取り組みを行った結果、当中間連結会計期間における経営成績は、売上高は37,121百万円（前年同期比4.4%増）、営業利益は2,929百万円（前年同期比15.8%増）、経常利益は2,967百万円（前年同期比16.7%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は1,874百万円（前年同期比9.6%減）となりました。

なお経営指標としている「総資本経常利益率」「売上高経常利益率」「労働生産性」及び「株主資本当期純利益率」の数値改善のため、より一層の経営努力に努めてまいります。



代表取締役社長

穴見くろみ

グループ店舗一覧

(2025年12月31日現在)

669 店

うちFC店舗248店舗 ※()内はFC店舗
※新業態・台湾含む

九州・沖縄エリア

334 店

※新業態店舗を含む

【ジョイフル 328店】
福岡 96(32) 大分 48(25)
佐賀 22(11) 宮崎 36(8)
長崎 22(21) 鹿児島 52(26)
熊本 45(20) 沖縄 7(7)

【喜楽や 3店】
大分 3
【並木街咖啡 3店】
福岡 1 大分 2

台湾

27 店

中国エリア

83 店

【ジョイフル 83店】
鳥取 4(3) 広島 15(6)
島根 7(3) 山口 35(14)
岡山 22(8)

北陸エリア

11 店

【ジョイフル 11店】
富山 6(3) 石川 5(1)

中部エリア

57 店

【ジョイフル 57店】
岐阜 11(3) 愛知 28(9)
静岡 12(5) 三重 6

東北エリア

11 店

【ジョイフル 11店】
宮城 10(4) 福島 1

関東エリア

41 店

※新業態店舗を含む

【ジョイフル 40店】
茨城 6(2) 埼玉 11(1)
栃木 4(1) 千葉 7(1)
群馬 8(4) 東京 4(1)

【キッチンジロー 1店】
東京 1

近畿エリア

66 店

※新業態店舗を含む

【ジョイフル 39店】
滋賀 6(2) 兵庫 15(5)
京都 3 奈良 5(1)
大阪 3 和歌山 7(1)

【フレンドリー 26店】
京都 2 奈良 2
大阪 17 和歌山 3
兵庫 2

【キッチンジロー 1店】
大阪 1

四国エリア

39 店

【ジョイフル 36店】
徳島 5(1) 愛媛 17(13)
香川 12(4) 高知 5(2)



※商品イメージ写真（実際に店舗で提供される盛付けとは異なります）

2026年6月期 上期の主な取り組み

- AI時代におけるDXを推進し、顧客体験価値向上へ
- 世界的に著名なアニメとのコラボメニューを展開
- 新たなビジネスモデルとしてフードコート領域への挑戦

全国のジョイフルの客席でお好きなタイミングで従業員を介さずに会計ができる、「テーブル決済」を2025年10月21日（火）より開始いたしました。

2025年春に、全店導入が完了したQRコード決済や、公式アプリの機能充実など、今後もデジタル施策を積極的に活用し、顧客満足度の向上に努めてまいります。



QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

世界的な人気を誇るTVアニメ『ONE PIECE』とのコラボキャンペーンを、2025年12月2日（火）より約40日間実施しました。

全10品のコラボメニューをはじめ、SNSプレゼント施策、また熊本市内では、ラッピング電車を使用したプロモーションなどを行い話題や売上獲得へ繋がりました。



© 尾田栄一郎 / 集英社・フジテレビ・東映アニメーション

2025年12月中旬、セルフサービス形式の「JOYFULL EXPRESS(ジョイフル エクスプレス)」を、商業施設「アミュプラザおおいた (大分駅ビルエリア)」3階のフードコートにオープンしました。

売上も堅調に推移しており、新たなビジネスモデルとして期待をしています。



社員独立フランチャイズ制度の広がり

ジョイフルでは勤務する社員の新たな働き方の一つとして、自身が積み重ねた店舗経営ノウハウを活かして、希望地域で加盟店代表者として独立することができる社員独立フランチャイズ制度を2022年8月より開始いたしました。2025年12月31日現在で、156名(204店舗)が加盟店代表者として独立・開業しております。

社員独立フランチャイズ制度を実施することで、加盟店代表者からロイヤリティが支払われ、本部の安定的な経営が実現できるとともに、加盟店代表者は今までの店舗経営を活かしつつ、転勤のない希望地域で開業することが可能となります。また、もともと営業している店舗を使って開業を行うことで、精度の高い事業計画と本部からの全面バックアップのもとに営業に注力することができます。

今後約5年で当社店舗の約70%のフランチャイズ化を目指し、『店舗・本部の収益アップ=加盟店代表者の収入アップ』を達成するという、新たな働き方の実現を進めてまいります。

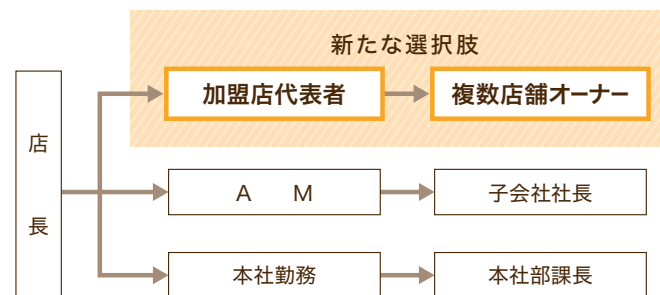


フランチャイズシステムとは

フランチャイズとは、フランチャイズに加盟する人(加盟店代表者)がフランチャイズ本部(ジョイフル)から店舗・サービス・商品などを使う権利を得て、店舗の経営・運営を行うものです。

- 加盟店代表者と本部がビジネスパートナーとして一体となり、共同で収益を上げることで、双方に利益がある関係を築きます。
- 加盟店代表者は本部の全面バックアップを受け、収益向上に専念できることで収益の一部をロイヤリティとして本部に支払っていただくビジネスモデルとなります。

社員の働き方イメージ





※商品イメージ写真（実際に店舗で提供される盛付けとは異なります）

2026年6月期 下期の主な取り組み

2026年5月20日に創業50周年を迎えるにあたり 周年記念ロゴ&メッセージを発表

<ビジュアルメッセージ>

1976年、楽しいをいっぱい、の想いを名前に込めジョイフルは生まれました。晴れの日も、雨の日も、雪の日も、風の日も。朝も、昼も、夕方も、夜も、深夜も。「おながすいた」とせかさ小さいお子さんを連れてご家族、出勤前の朝のコーヒーを楽しむ人たち、散歩の途中でひと休みする年配の方々、おしゃべりを楽しむ常連さん、真っ黒に日焼けした部活帰りの高校生、付き合い始めのどこかごちない恋人たち、そして、大人になって、自分の子どもや親を連れてきてくれる、あの時の少女。ジョイフルでいいよ、ではなくジョイフルがいい。そう言っていただけるように、これからもお客さまを想いながら、満足いただける料理や環境をつくり、私たちの住む地域を街を、笑顔でいっぱいにしていきたい。いつもと同じ場所に、いつもと同じハンバーグ。ジョイフルはおかげさまで創業50周年を迎えます。今後ともどうぞ変わらずに、よろしく願いいたします。

<50周年ビジュアル第一弾&メッセージに込めた想い>

夜の星空の下、暗闇に光るジョイフルの店舗。昔のネオン管ロゴが使われている店舗をビジュアルにしました。50年前から、いつもと同じ場所に存在しており、その地域の皆さまを変わらずに迎えている想いを込めています。

2026年5月20日より様々な周年施策を行います。
どうぞご期待ください。



SDGsへの取り組みー食の楽しさと感動を届けて笑顔あふれる未来へ

ジョイフルのマテリアリティ



取り組みの一つとして、フードバンク事業者「フードバンク東九州」様へ、従業員が家庭から持ち寄った食材を寄付しています。寄付した食材は、必要とされている方や福祉施設に無償で提供されます。

その他に、働きやすい職場環境づくりを推進することで、モチベーションの向上、労働生産性の向上、組織の活性化に繋がると考え、2020年から健康経営実施における目標を定め、「健康増進、生活習慣病予防対策」「メンタルヘルス対策」などを進めた結果、2021年3月より毎年「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に認定されています。

2018年に認定された「くるみん」は、子育てサポート企業としての実績が認められ、毎年認定交付をされています。継続して実施しているプラスチック製ストローの提供廃止、バイオマス材料を配合したテイクアウト用袋の導入などのサービスや事業活動を通じて、今後も環境保全と社会の発展のため、取り組みを進めてまいります。

また、ジョイフルでは、子ども食堂事業や子ども支援活動も継続して行っております。子ども達に提供される食事に對して食材の提供を行うことによりフードロスの削減に努めるとともに、人と人との関わりが希薄になっている現在の社会において、未来を担う子ども達に對して、地域の方々との共食の機会を提供することにより、豊かな人格育成、新たな地域コミュニティの構築などに取り組んでいます。



新店オープン
 〈国内〉 ■ JOYFULL EXPRESS アミュプラザおおい店
 〈海外〉 ■ 台湾ジョイフル 台中西屯店・台中文心店・小港漢民店・新店家樂福店
 台南大全聯店・南投埔里店

連結財務諸表

Point

資産の部

当中間連結会計期間末の総資産33,895百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,276百万円の増加となりました。これは主に、土地の増加1,005百万円、現金及び預金の増加742百万円、売掛金の増加461百万円、原材料及び貯蔵品の増加332百万円、流動資産その他の減少152百万円、工具、器具及び備品の減少110百万円によるものであります。

Point

純資産の部

当中間連結会計期間末の純資産合計は14,263百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,859百万円の増加となりました。これは主に、利益剰余金の増加1,720百万円によるものであります。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

	前中間連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産	6,175	7,637
固定資産	25,443	26,258
有形固定資産	20,602	21,415
無形固定資産	392	473
投資その他の資産	4,448	4,369
資産合計	31,618	33,895
負債の部		
流動負債	10,891	11,974
固定負債	8,324	7,657
負債合計	19,215	19,632
純資産の部		
株主資本	12,226	13,947
資本金	100	100
資本剰余金	4,229	4,229
利益剰余金	9,407	11,128
自己株式	△ 1,510	△ 1,510
その他の包括利益累計額	85	204
純資産合計	12,403	14,263
負債純資産合計	31,618	33,895

Point

負債の部

当中間連結会計期間末の負債合計は19,632百万円となり、前連結会計年度末に比べ416百万円の増加となりました。これは主に、未払法人税等の増加807百万円、流動負債その他の減少713百万円、買掛金の増加671百万円、長期借入金の減少630百万円、短期借入金の増加430百万円、未払消費税等の増加375百万円、未払費用の減少326百万円によるものであります。

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 7月 1日 至 2025年12月31日)
売上高	35,557	37,121
売上原価	12,658	15,003
売上総利益	22,899	22,117
販売費及び一般管理費	20,369	19,188
営業利益	2,530	2,929
営業外収益合計	124	134
営業外費用合計	112	95
経常利益	2,542	2,967
特別利益	-	-
特別損失	13	7
法人税等	440	1,069
中間純利益	2,087	1,890
親会社株主に帰属する中間純利益	2,075	1,874

※金額は百万円未満を切捨表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 7月 1日 至 2025年12月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	2,609	3,695
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,937	△ 2,369
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,465	△ 605
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 807	742
現金及び現金同等物の 期首残高	3,476	1,779
現金及び現金同等物の 中間期末残高	2,668	2,521

Point

営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは前期比1,086百万円増加して3,695百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、税金等調整前中間純利益2,960百万円、減価償却費932百万円、仕入債務の増減額671百万円、未払又は未収消費税等の増減額481百万円、棚卸資産の増減額△410百万円、未払費用の増減額△326百万円であります。

Point

投資活動による キャッシュ・フロー

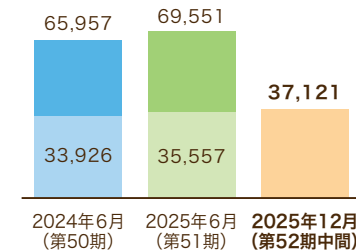
投資活動によるキャッシュ・フローは前期比431百万円減少して△2,369百万円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、有形及び無形固定資産の取得による支出△2,388百万円であります。

Point

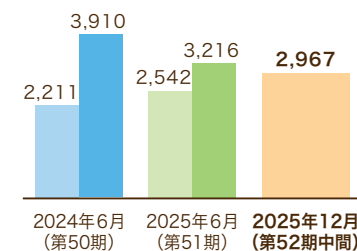
財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは前期比860百万円増加して△605百万円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、長期借入金の返済による支出△808百万円、短期借入金の純増減額430百万円であります。

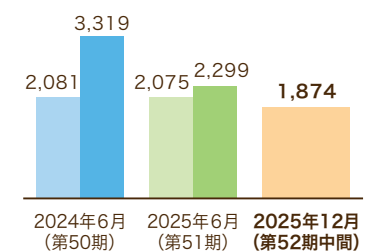
売上高



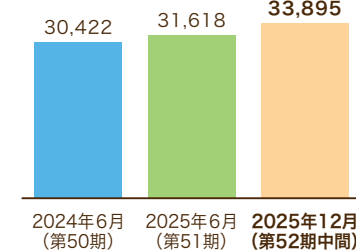
経常利益



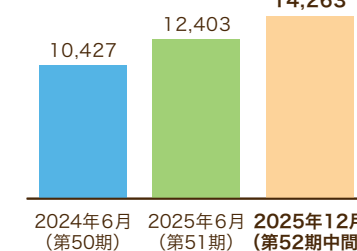
親会社株主に帰属する純利益



総資産

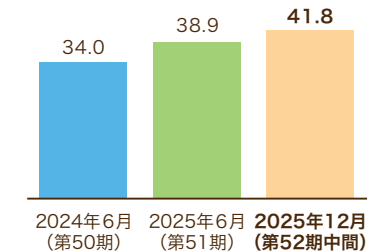


純資産



自己資本比率

(単位：%)



■ 中間期 ■ 通期 (単位：百万円)